

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第178回 『読み書き：書字編』

作業療法士 塩津 裕康

作業療法士の塩津です。今回は、読み書きの中でも「書字」についてもう少し説明したいと思います。

○書字のトラブルあるある

パソコンやスマートフォン、タブレットなど、さまざまなデバイスが普及し、今や字は書くものというより「打つ」ものになってきております。とはいえ、「手書き」というのはまだ不要になった訳ではないです。手紙を書いたり、思考の整理でノートを書いたり、手書きならではの良い面もあるわけです。

ですが、書字に困る子どもは一定数存在することはわかっています。正しく持てない、きれいな文字を書けない、文字のバランスが悪い、聞いた音と文字が一致しない…などです。

○書字に必要な能力

書字は複雑な活動であり、人のさまざまな能力を駆使しなければなりません。たとえば、「**運筆コントロール**（鉛筆を操作する）」、「**空間知覚**（文字の間隔や配列などを把握する）」などが必要です。

○運筆コントロール

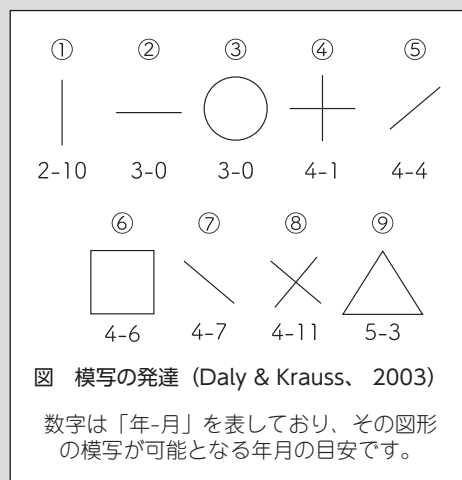
自身が意図したように鉛筆を動かす（運筆コントロール）ためには、①姿勢を保つ、②指先の感覚運動、が大切になってきます。「姿勢を保つ」が難しいと、授業中座っていることで精一杯で手や指を動かして字を書くどころではありません。そのため、小さいときから活発に遊ぶ経験は、学習にも繋がっていきます。

「指先の感覚運動」では、運筆は鉛筆を介して運筆の抵抗感を手で感じ取り、その加減で運動を調整していかなければいけません。手づかみ食べ、粘土、フィンガーペインティング、虫取り、砂場遊び、など…さまざまな感覚運動経験は細かな運動に繋がっていきます。

○空間知覚

空間知覚は視力とは異なります。見て形などを捉える力です。書字の基礎になるものの一つに「模写」があります。模写の発達順序（図）を見て分かる通り、「**交差**」や「**斜め**」の要素が難しいです。描画などの遊びは発達に有効だと考えられます。ただ、中には形や空間を捉えづらい子どももいますので、より学習しやすい道具の工夫も必要になります。

この辺りの道具に関しては、次回以降にご紹介できればと思います。よろしくお願ひします。



※塩津作業療法士は、あさひ園で個別療育を行っています。

子育て支援事業紹介



塩津作業療法士による個別療育

塩津作業療法士は、中部大学助教授で、学生を教えながらも月1回、朝日町あさひ園に来て個別療育をしています。また「子育てワンポイントアドバイス」も執筆していただいています。

保育士や保護者の相談にも優しく的確にアドバイスいただき、子どもたちにも大人気です。



お知らせ

※10月の、ほっとくらぶで実施する「ほっとする親の会」「あそび場」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催が未定です。開催する場合は、ほっとくらぶより連絡します。

※最終ページに子育て事業を掲載していますので、ご覧ください。